



写真①

雪が融け始める早春。私は落ち着かなくなります。菜園の隣の小さなオーガニックフラワーガーデンから「声」が聞こえてくるのです。声の主は、春の球根植物などの多年草たちです。

2月には雪の中で、「こんにちは！」という小さな声が私を呼びました。雪の下で咲いたスノードロップでした。3月に雪が融けると、あちこちで「こんにちは！」の声。クロッカス、ミスミソウ、シラーンベリカで、ビュービューと吹き荒れる春の嵐の中、うれしそうに小さな花を開花させました。4月になるとお庭は「こんにちは！」の大合唱。チューリップやスイセンの原種に会える季節です。写真①はブルーパール（クロッカス）、写真②はゴールデンベルズ（=スイセンの原種）です。

これらの多年草は、私たちと共にアースガーデンで暮らす仲間たち。5月には「のどが乾いた…」という声がします。しばらく初夏の日射しが続いていたことに気がつき、私は鉢物に水をやります。「お腹がすいた…」という声も聞こえてきます。昨年、雪が降る前に堆肥と肥料を

やっていたなかった場所があったことを思い出し、「ちょっと待ってね」と声をかけて「お花用のごはん」を持参します。暖くなるにつれ草の勢いが強くなり、「これ邪魔なの、何とかして!」「ここは私の場所よ!」という声が次々と聞こえてきます。勢いの良い植物がはびこり、おとなしく控えめな植物の領分に入り込むのです。植物は一見可憐でも、すべてが繁殖して数をふやし、領土拡張主義者になり、他の植物の領分にお互いに侵入していきます。その仲裁役もガーデナーの仕事のひとつ。放っておくと強いものが優勢になり、生物多様性へのマイナス影響があります。多くの植物が共存して、末永くここで生きられるように、私は花たちの声に耳を傾けて手助けします。

春には球根類だけでなく、イヌフグリ、カラスノエンドウ、ヒメオドリコソウ、ムラサキケマンなど野草の花が咲きます。実は私が昔からはまっている楽しみがあります。18倍のレンズ(=拡大鏡)にヒモを付け首から下げて、ひっそりと目立たない野草の花の観察です。ゴマ粒ほどの小さな花でも、拡大して見ると園芸植物と同様、あるいはそれ以上に美しいことがわかります。例えばハコベの花は目立たないけど、一度拡大鏡で見てほしいです。またシロツメグサは多くの花が頭部に丸く密集していますが、そのひとつひとつの花がどれだけ美しいか、知っている人は少ないことでしょう。秋はぜひミズヒキを探して、小さな赤い花を見てくださいね。花が小さければ小さいほど、その花の美しさを知った時の感動が大きくなります。

野草はミネラルの宝庫でもあります。例えばハコベはカリ、マンガン、鉄、銅などを蓄積することが「ナチュラルガデンプック」(産調出版)に出ています。カラスノエンドウも多くのミネラルを蓄え、加えて根に根粒菌と呼ばれるバクテリアがコロニーを作り、空気中の窒素を固定し、植物が取り込める化学的なかたちに変えてくれます。土作りには野草の存在がかかせません。雑草として敵視するよりも、野草に関する情報を知り、育てて活用した方が良いでしょう。

以上、お花や野草についてでしたが、アースガーデンの中心は何と言っても人間のサバイバルに向けた「食べられるお庭」です。この季節、いろいろな菜花や山野草など、テンプラの材料が30種類以上自給できます。写真③はアースガーデンの体験、交流プログラムのひとつ「農的暮らしの体験&ランチ」に4月末に参加された方が庭で収穫し、用意してくださったテンプラの材料です。サツマイモとシメジ以外はすべてこのものです。ソバの葉や、クコの若葉、ヤマウドがおいしかったです。皆さんも一度このプログラムにご参加されませんか?(もし時間があれば、野草の花を拡大鏡で見て、楽しんでいただけるかもしれません。)ではまたお便りします。



写真②



写真③

2013年5月14日

アースガーデン 植月千砂

追伸: 多くの方がご心配くださっているアースガーデン東隣接地の酒造工場とアクセス道路計画は、3月着工のはずでしたが、どういいうわけかまだ着工されていません。